

原著

小学生の子をもつ母親の育児における困り感についての検討

井 梅 由美子¹⁾

A Study on Difficulties in Parenting of Elementary School Children among Mothers

Yumiko Iume

要 約

昨今、乳幼児期の母親の育児不安や育児支援についての研究は多くなされている。しかしながら、小学生以後の子どもを育てている母親についての研究は少ない。そこで本研究では、小学生の子を持つ母親300名にオンライン調査を実施し、子育てにおける困り感や、育児不安、夫／実母／ママ友からのサポート、幼少時の親子関係等を尋ねた。子育ての困り感について、子の性別と年齢による差を検討した結果、「食事の習慣、しつけ」、「子の学校でのトラブル」「成長発達」等4項目で男子の得点が高かった。また、自由記述で聞いた子育ての困り感について、KJ法により分類を行い、10大カテゴリー、36小カテゴリーを得た。最後に、育児不安と、困り感、幼少期の親子関係、夫／母／ママ友サポートとの関連を検討したところ、育児不安と困り感では、正の相関が認められ、幼少期の親子関係と夫／ママ友サポートも育児不安に関連していることが分かった。

キーワード：小学生、母親、育児支援

1. 問題と目的

昨今、子育て支援の必要性は周知のこととなり、母親の育児不安や育児支援についての研究は多くなされている。しかしながら、これらの研究では主に乳幼児をもつ母親を対象としており、小学生期以後の子どもを育てている母親についての研究は非常に少ない。子どもが小学生になると、乳幼児期のように常に目が離せなかつたり、世話をする必要のある状態ではなくなるが、子どもの成長に伴い、新たな悩みも出現する。松岡ら（2013）は、発達障害児を持つ母親へのインタビュー調査において、子ど

もの友だち関係の不安や勉強がついていけない不安など学校生活への不安を持っていることを指摘しており、子どもの成長に伴って、母親の悩みも変化していくことが推測される。また、木戸ら（2005）は、学齢期の子どもをもつ母親へのインタビュー調査において、学齢期では、子どもを介した母親同士のつきあいでストレスも多く、学齢期に入ってから知り合う母親同士の関係で育児上の悩みを話し合える友人関係には発展しがたい可能性を示唆している。子どもの年齢が上がるにつれて、子ども同士のけんかや子どもが乱暴、（他の子を）いじめたなど、子ども同士の関係性や性格などが加味され、母親同士の

1) 井梅由美子 東京未来大学こども心理学部 (Tokyo Future University) iume-yumiko@tokyomirai.jp

関係もより複雑化することが推測される（井梅・藤後，2014）。

しかしながら、冒頭でも述べたように、小学生の子をもつ母親に対する調査は乳幼児期のものと比較し、非常に少なく、小学生の子をもつ母親がどのような育児の困り感を抱えているのか、また、母親の育児不安や養育の困難が幼児期と比べ、どのように変化しているのか、これらを比較する研究などは見当たらない。

そこで本研究では、以下、3点を明らかにすることを目的に、アンケート調査を実施した。

- ・小学生の母親の子育てにおける困り感について、量的および質的に明らかにする。
- ・母親の育児不安について、幼児期のデータ（井梅，2018）と同様の項目で測定し、比較する。
- ・母親の育児不安に関連する要因として、母親自身の親の養育態度や現在の周囲からのサポート、子育てにおける困り感との関連を検討する。

2. 方法

(1) 手続き

調査会社に委託しオンライン調査を実施した。回答は自由意思に基づくこと、統計データは学術的に利用することが回答前に説明され、同意した者が回答した。

(2) 調査対象者

小学生の子を持つ母親300名を対象に調査を実施した。回答者の平均年齢は41.38歳（28～55歳 $SD = 4.72$ ）であった。

(3) 調査内容

a) フェイス項目

子どもの学年（複数いる場合は全ての子どもの学年、あるいは就学前の場合は年齢）、性別（複数いる場合は全ての子どもの性別）、子どもの人数、回答者本人の年齢、就労状況等を尋ねた。

b) 子育てにおける困り感

benesseによる母親調査（山岡，2011）を参考に、子育てにおける様々な場面（生活リズム、食事習慣、

お子さんの友だち関係、学習習慣等10項目）での母親の困り感の程度について、「全く気がかりではない（1）」「あまり気がかりではない（2）」「少し気がかりだ（3）」「かなり気がかりだ（4）」「非常に気がかりだ（5）」の5件法で回答を求めた。

c) 育児不安を測定する項目

母親の育児にまつわる不安や負担感について、荒牧（2008）の育児感情尺度、および宮本（2013）の育児不安尺度など既存の尺度から項目を選択し用いた。16項目からなる。

d) 母親の幼少時の自身の両親の養育態度

小山（1999）を参考に、自身の幼少期の両親の養育態度について尋ねた。受容的態度5項目、統制的態度5項目の計10項目からなる。父親、母親それぞれについて、回答を求めた。

e) 夫、実母、ママ友からのサポートに関する尺度

子育てをしている母親の身近な相談相手として、夫、自身の母親（実母）、ママ友からのサポートをどの程度受けているかを尋ねた。夫に関する6項目、実母に関する項目6項目、ママ友に関する2項目の全14項目からなる。

以上c)～e)について、「とてもそう思う（6）」から「まったくそう思わない（1）」までの6件法で回答を求めた。

f)自由記述にて、以下の質問への記入を求めた。「子育てにおいて悩んでいること、困っていることについて、お聞きします。現在小学生のお子さんを育てているうえでの悩みを自由に書いて下さい。」

(4) 倫理的配慮

本研究の実施にあたり、インターネット調査会社の調査モニターとして登録している人の中から、テーマを説明したうえで匿名にて協力を募り、協力しても構わないと考える人のみが回答を行った。彼らは、モニター登録の段階で調査データを統計的に処理し発表する可能性について説明を受け了解したうえで、途中で回答をやめる権利を有していた。

3. 結果

(1) 基本的属性

調査参加者の基本的属性をTable 1に示す。母親の年齢は40代前半が全体の40.0%と最も多く、次いで30代後半が30.3%であった。平均年齢は41.38 ± 4.72歳である。子どもの人数は、2人と答えた人が55.7%で最も多く、3人以上の人が24.3%、1人は20.0%であった。子どもの人数の平均は2.09 ± 0.77人であった。母親の就労状況については、出産後働いていない人が38.7%と最も多く、次いで子どもが小学入学後にパートタイム勤務が24.3%、育（産）休後フルタイム勤務が13.7%、育（産）休後パートタイム勤務が13.3%、子どもが小学入学後にフルタイム勤務が5.0%であった。

Table 1 調査対象者の属性

項目	N	%
平均年齢	41.38歳	SD=4.72
年齢の分布		
28～29歳	2	0.7
30～34歳	18	6.0
35～39歳	91	30.3
40～44歳	112	40.0
45～49歳	67	22.3
50～55歳	10	3.3
子どもの人数		
1人	60	20.0
2人	167	55.7
3人以上	73	24.3
子どもの平均人数	2.09人	SD=0.77
就労状況		
育（産）休後フルタイム勤務	41	13.7
育（産）休後パートタイム勤務	40	13.3
子どもが小学入学後フルタイム勤務	15	5.0
子どもが小学入学後パートタイム勤務	73	24.3
子どもが産まれてからは働いていない	116	38.7
その他	15	5.0

(2) 尺度の検討

a) 育児不安尺度

育児不安尺度16項目について、因子分析（主因子法・プロマックス回転）を行い、井梅（2018）と同様、5因子が適当と判断した。因子分析の結果をTable 2に示す。信頼性の検討のため、クロンバックの α 係数を算出したところ、「育て方への不安（以

下、「育て方不安」と表記）では $\alpha = .91$ 、「育児における苛立ち（以下、「苛立ち」と表記）では $\alpha = .82$ 、「疲労感」では $\alpha = .75$ 、「社会からの孤立（以下、「社会孤立」と表記）では $\alpha = .77$ 、「子の発達についての不安（以下、「発達不安」と表記）」では $\alpha = .80$ であり、十分な内的整合性が確認された（Table 2）。

b) 幼少期の父母の養育態度尺度

子どもの頃の父母の養育態度について、10項目ずつ尋ねた。父親の養育態度に関する項目、母親の養育態度に関する項目について、それぞれ因子分析（主因子法・プロマックス回転）を行い、2因子を抽出した（Table 3）。第1因子は父母ともに同様の5項目の因子負荷が.55以上であり、この5項目を採用した。「私の言うことに耳を傾けてくれた」「その日の出来事について、家族と話をするのが好きだった」など受容的な養育態度から構成されることから、「受容的態度」と命名した。第2因子は、父母ともに5項目の因子負荷が.55以上であったが、他の因子にも.35以上の因子負荷のあった1項目を除外し、4項目を採用することとした。「私が言いつけどおりにするまで私を自由にさせてくれなかった」「私が口答えしたり、悪いことをしたとき、カッとして怒った」などから構成されることから「統制的態度」と命名した。各因子について、クロンバックの α 係数を算出したところ、受容的態度5項目で父 $\alpha = .92$ 、母 $\alpha = .91$ 、統制的態度4項目で父 $\alpha = .79$ 、母 $\alpha = .84$ の値が得られた。

c) 夫・実母・ママ友サポート

母親が身近な対人関係において、どの程度サポートを受けられているかを明らかにするため、夫、母親、ママ友それぞれのサポートの有無について、14項目で尋ねた。これらの質問項目について、因子分析（主因子法・プロマックス回転）を行ったところ、内容的に4因子が適当と判断した（Table 4）。第1因子は、夫に関する項目でまとまったことから、「夫サポート」と命名した。第2因子は、実母に関する項目でまとまったことから、「実母サポート」とした。第3因子は、ママ友に関する項目であったことから「ママ友サポート」とした。第4因子は、「実母には相談したくない」

Table 4 夫・実母・ママ友サポートの因子分析結果

項目	因子				共通性
	I	II	III	IV	
2 夫は心配事や悩みを聞いてくれる	.885	-.044	.047	.009	.773
4 夫は子どもの世話をよく見てくれる	.878	.027	-.005	-.015	.779
1 夫は落ち込んでいるとき、元気づけてくれる	.860	-.009	.027	.030	.746
5 夫は家事に協力的である	.844	.016	-.016	-.032	.712
6 夫は子どもと過ごす時間を楽しんでいる	.815	.052	-.046	-.023	.682
3 夫婦で毎日会話をする	.769	-.039	-.009	.029	.587
1 育児で困ったときには母（実母）に相談する	.017	.868	-.053	.023	.754
5 母（実母）には何でも相談できる	-.043	.867	.032	-.041	.745
2 母（実母）とは仲が良い	.019	.812	.012	-.109	.670
6 母（実母）に子育てのサポートをしてもらっている	.010	.686	.019	.162	.516
2 困ったときに相談できるママ友がいる	.028	-.009	.903	-.007	.815
1 子どものことで困ったときはママ友に相談する	-.029	.016	.892	.009	.799
4 子育てについて、母（実母）に相談したくない	.007	-.005	-.023	.897	.811
3 母（実母）に、子育てについて干渉されたくない	-.007	.020	.024	.789	.621
因子間相関	I	.214	.004	.137	
	II		.134	.055	
	III			-.097	

Table 5 母親の子育てにおける困り感

	全体 平均	男子			女子			性差	発達段階差
		低学年	中学年	高学年	低学年	中学年	高学年		
<i>n</i>	300	43	50	62	35	51	59		
ほめ方・しかり方	3.39 (1.02)	3.53 (1.10)	3.38 (1.10)	3.34 (1.01)	3.34 (0.94)	3.47 (0.95)	3.29 (1.05)		
整理整頓・片づけ	3.50 (1.02)	3.58 (0.96)	3.40 (0.99)	3.66 (0.90)	3.46 (1.09)	3.45 (1.10)	3.42 (1.12)		
生活リズム (朝起きる時間・夜寝る時間など)	2.91 (1.12)	3.02 (1.16)	2.90 (1.27)	2.92 (1.08)	2.83 (1.07)	2.94 (1.07)	2.86 (1.12)		
食事の習慣、しつけ	3.09 (1.06)	3.53 (1.03)	3.14 (1.07)	3.03 (0.97)	3.03 (0.89)	3.00 (1.13)	2.88 (1.12)	男>女 (4.66*)	
お子さんの友だち関係	3.15 (1.07)	3.16 (1.19)	3.42 (1.01)	2.97 (1.02)	3.31 (1.05)	3.18 (0.99)	3.00 (1.13)		
お子さんの学校でのトラブル	2.94 (1.06)	3.12 (1.22)	3.18 (1.00)	2.94 (0.97)	2.91 (1.07)	2.78 (1.08)	2.78 (1.02)	男>女 (4.10*)	
お子さんの成長発達	2.76 (1.16)	2.84 (1.36)	3.24 (1.04)	2.85 (1.16)	2.57 (0.92)	2.61 (1.18)	2.46 (1.12)	男>女 (10.31**)	
家庭学習の習慣	3.03 (1.10)	3.09 (1.32)	2.96 (1.09)	3.32 (0.92)	2.71 (0.83)	2.94 (1.14)	3.00 (1.16)		
勉強の成績	3.02 (1.16)	2.81 (1.33)	3.18 (1.06)	3.23 (1.15)	2.57 (0.88)	3.02 (1.12)	3.10 (1.26)	低<中,高 (4.28*)	
運動機能やからだの成長発達	2.83 (1.14)	2.93 (1.22)	3.32 (1.02)	2.90 (0.97)	2.71 (1.05)	2.69 (1.22)	2.47 (1.18)	男>女 (10.60**)	

※悩みについて、「非常に気がかり (5)」から「全く気がかりではない (1)」の5件法で回答を求めた。

「実母に子育てについて干渉されたくない」の2つから構成されることから、「実母葛藤」とした。クロンバックの α 係数を算出したところ、「夫サポート」で $\alpha = .94$ 、「実母サポート」で $\alpha = .88$ 、「ママ友サポート」で $\alpha = .83$ 、「実母葛藤」で $\alpha = .89$ であった。

(3) 子育てにおける困り感

子育ての困り感について、「非常に気がかりだ (5)」から「全く気がかりでない (1)」の5件法で聞いたところ、10項目中もっとも得点が高かったものは、「整理整頓・片づけ」で $M = 3.50$ 、次に高かったものは「ほ

め方・しかり方」で $M=3.39$ であった。

また、子どもの性別の違いと年齢によって母親の悩みの程度に違いがあるかを検討するために、子育てにおける様々な場面での悩みの程度を従属変数、子どもの性別、および学年（小学校低学年／中学年／高学年の3群）を独立変数として、2要因の分散分析を行った。結果をTable 5に示す。分析の結果、2つの要因の交互作用は見られなかった。主効果に有意な差があった項目について、男女差があったものは、「食事の習慣、しつけ」、「お子さんの学校でのトラブル」「お子さんの成長発達」「運動機能やからだの成長発達」の4つの項目であり、全て男子の得点が高かった（それぞれ順に、 $F_{(1, 294)}=4.66, p<.05$; $F_{(1, 294)}=4.10, p<.05$; $F_{(1, 294)}=10.31, p<.01$; $F_{(1, 294)}=10.60, p<.01$ ）。発達段階に差があったものは、「勉強の成績」の1項目であった（ $F_{(2, 294)}=4.28, p<.05$ ）。

多重比較の結果、高学年、中学年に比べて、低学年の得点が低いことが分かった。

次に、自由記述により回答を求めた「お子さんを育てているうえでの悩み」について、KJ法により分類した。その内容により10の大カテゴリーおよび、大カテゴリーの中でさらに内容から分類が必要なものは小カテゴリーに分け、「その他」と「なし」を含む36の小カテゴリーに分類された。Table 6には各カテゴリーに分類された件数と実際の自由記述例を示した。なお、1人の回答者の記述の中に、内容の異なる複数の事柄があった場合は、その内容ごとに件数をカウントした。記述の件数は327件であった。以下では大カテゴリーを《 》で、小カテゴリーを〈 〉で、実際の記述内容を「 」で記す。

1番目の大カテゴリーは、《勉強面》の記載に関するものをグループとした（47件）。その中でも、「宿

Table 6 子育てで悩んでいること

大カテゴリー	小カテゴリー	件数	実際の自由記述例
勉強面 (47)	宿題をしないなど学習への姿勢	24	・宿題（家庭学習）をしない ・勉強の習慣がついていない ・宿題が終わる前に集中力が切れてしまい2時間ぐらいかかっていた。
	学力面／勉強全般の心配	23	・学校の勉強が難しくなるので、ついていけないか心配 ・家庭学習に時間をかけて通塾もしているのに学力の伸びが良くないこと。
子どもの友達関係について (37)	友だち関係全般	21	・友達関係。 ・友達のこと。うまくやれているのか。 ・高学年になっての友達関係。
	友だちトラブル	8	・高学年になるにつれて、お友達とのトラブルも増えてきた。 ・友達トラブルが多くて大変。対処の仕方が分からない。
	いじめの不安	4	・友達関係。いじめられやすい子なので、いじめに発展しないか心配 ・友達から意地悪なことを言われても言い返せない。
	友達がいない	4	・友達と遊ばない ・本人は気にしていないが、学校で友達がいないこと。 ・友達ができるまでに時間がかかる
子どもの反抗期・思春期の悩み (30)		30	・反抗期なのか、扱い方が難しい ・最近反抗期なのか、口答えばかりする ・思春期に向けてなのか、今までより、親の言った言葉に怒ることが多く、声掛けが難しいと感じる。
発達障害／発達の遅れについて (16)	発達障害の診断あり	7	・ADHDなので将来自立できるか不安 ・息子はアスペルガー症候群です。不安が強く、すぐにパニックを起こします。… ・長男は年中時より「自閉症スペクトラム」と診断され、知的な遅れは無いため普通学級へ進級。友達が出来るのか心配でしたが、3年生になった頃から徐々に放課後、友達と遊ぶように…でも本当にコミュニケーションが出来るのか、また相手を傷つけていないか等心配。
	発達障害があるので、との懸念	2	・落ち着きがなかったり、物覚えが悪かったりすると発達障害ではと思うことがあります。気軽に相談や診断ができるような機関があるともやもやが解決されると思います。
	発達の遅れの心配	7	・発達の遅れている部分があり、皆と同じようにできないことがあるのでいじめられないか心配。 ・まわりよりも、身体的にも学力的にも遅れていると感じる。

大カテゴリー	小カテゴリー	件数	実際の自由記述例
ゲーム、スマホのしすぎ (15)		15	・ゲームのやりすぎ ・ゲームが好きすぎて放っておくと何時間でもしてしまう。 ・スマホやゲームに夢中。食事中もスマホ
子どもの性格や気質に関する悩み (25)	かんしゃく、わがままなど対応の難しさ	15	・かんしゃく ・わがまままで我が強い。 ・感情の起伏がつかれる ・同じことを何回も注意されても治らない (食事の行儀の悪さなど)
	場面緘黙、おとなしい	6	・内気でおとなしすぎるので、自分の思いを友人や先生に伝えることが苦手です。 ・場面かんもく症で、学校で会話ができないこと
	マイペース	4	・子どもがマイペースで周囲に興味がない
行動上の問題 (38)	不登校／登校渋り	5	・不登校 ・学校を休みたがる
	嘘をつく	3	・嘘をすぐにつく。どれまで本当かわからなくなってきた
	偏食／好き嫌い	4	・食べ物の好き嫌いが多く困っています。 ・偏食
	片付けできない	8	・片付けができないことが心配 ・整理整頓ができない。
	忘れ物	3	・忘れ物が多い。
	集中力がない	3	・あまり集中力が無くて、何度も言わないと行動に移せなかったり、途中で手が止まってしまう。
	手伝いしない	4	・手伝いをしない。
	自己管理できない	3	・自分の管理ができてない。
	時間管理できない	5	・急かさないと勉強や朝の支度ができない。 ・切り替えが遅い。
心身の健康／発育 (14)	発育具合等の心配	6	・体が小柄すぎる ・背が低い ・最近太り始めた。
	心身の健康	8	・夜寝つきが悪い・肩こり ・悩んだりしていると、頭痛などが起こる ・精神的に弱い
課外活動(10)	習い事	6	・習い事の取捨選択 ・習い事が全く身につけていない。 ・習い事にかかる時間と費用が負担
	中学受験	4	・中学受験の大変さ ・中学受験への、やる気や成績など勉強悩んでる
養育に関する悩み (37)	しつけの難しさ、干渉の度合い	11	・褒め方しかり方が正しいのかどうか ・挨拶や片付けなど大事なことがうまくしつけできていない ・どこまで一人でやること、手助けするかの具合 ・どの程度口を出すか。
	叱りすぎへの後悔	9	・ついつい感情的に怒りがちなので、怒ってしまった後いつも反省、効果的な叱り方を知りたい。 ・毎日叱ってしまい (そもそも叱るべきことがあるのだが) これが将来的に影響してしまわないか心配
	一人で育てている不安	4	・離婚しているので、父親がいない寂しさを感じているだろうと思う。 ・夫が単身赴任でいないので、私ひとりでちゃんと育てていけているのか不安
	関わりが少なく心配	4	・フルタイムの仕事なので学校の事がフォロー出来ない。 ・時間に余裕がなく、ゆっくり話を聞いたり関われない。
	きょうだい関係・一人っ子	4	・(姉妹) お互い対抗意識が強くて困る。少しでもどちらかがいい思いをするとずるい!となり面倒。 ・ひとりっ子なので、学校から帰った後の過ごし方がマンネリ。母と二人で過ごす時間が長い。
	経済的問題	2	・教育によい環境を十分に整えられないでいる (住環境など) ・これからの金のこと
	目が届かない心配	3	・幼稚園の頃と違い、小学生になると親から離れて行動することもあり、公園で遊んでいる時友達とトラブルになってないか…、などいろいろと不安。
特になし		37	
その他		21	

題をしない」あるいは、宿題をするのに時間がかかるなど、宿題にまつわる記述が多く見られた。また、「勉強の習慣がついていない」など、勉強に向かわせることの苦勞が挙がっており、＜宿題をしないな

ど学習への姿勢＞を1つのまとまりとした。さらに、「(学習の内容に) ついていけないか心配」、「通塾しているのに学力が伸びない」など、学力面での不安も多く挙がり、他、詳細は分からないが「勉強」と書

かれていたものも複数見られ、〈学力面／勉強全般の心配〉として1つのグループとした。

2番目の大カテゴリーは、《子どもの友だち関係について》の記述が分類された(37件)。「友達とうまくやれているのか」「友達関係」など〈友達関係全般〉の他、「高学年になるにつれてお友達とのトラブルが増えてきた」といったことや、「友達トラブルが多く、対処の仕方が分からない」など、〈友だちトラブル〉を心配する声も挙がっていた。また、「友達からいじわるなことを言われても言い返せない」など〈いじめの不安〉や、「本人は気にしていないが、学校で友達がいなくて」など、〈友達がいなくて〉気がかりも挙がっていた。

3番目の大カテゴリーには、《子どもの反抗期・思春期の悩み》といった内容が見られた(30件)。「扱いが難しくなった」「口答えばかりする」「今までよりすぐ怒り、声掛けが難しい」など、子どもの成長により、関わりに変化が見られるようになってきたことに戸惑いや大変さを感じている記述が多かった。内容的にはほぼ同質な記述であったことから、小カテゴリーは設けなかった。

4番目の大カテゴリーは、《発達障害／発達の遅れについて》の内容をまとめた(16件)。そのうち7件は、「長男は「自閉症スペクトラム」と診断され…」や、「息子はアスペルガー症候群で…」など、すでに診断名が書かれており、〈発達障害の診断あり〉とした。一方、「落ち着きがなかったり、物覚えが悪かったりすると発達障害ではと思うことがあります。…」など、診断は受けていないが、母親が日々の様子から気になっている内容については、〈発達障害があるのではとの懸念〉に分類した(2件)。また「発達の遅れている部分があり…」「まわりよりも…遅れていると感じる」等、発達障害への言及はないが、発達の遅れを心配している内容は〈発達の遅れの心配〉とした(7件)。

5番目の大カテゴリーは、《ゲーム、スマホのしすぎ》に関する内容をまとめた(15件)。「ゲームのやりすぎ」「ゲームが好きすぎて放っておくと何時

間でも…」など、ほぼ同じ内容が見られたことから、小カテゴリーは設けなかった。

6番目の大カテゴリーは、《子どもの性格や気質に関する悩み》についてまとめた(25件)。さらに小カテゴリーとして、〈かんしゃく、わがままなど対応の難しさ〉について言及しているもの(15件)、「内気でおとなしすぎるので、自分の思いを友人や先生に伝えることが苦手。」など、〈場面緘黙、おとなしい〉ことへの心配(6件)、「子どもがマイペースで周囲に興味がない」など、〈マイペース〉であることへの心配(4件)の3つに分類した。

7番目の大カテゴリーは、《行動上の問題》についてまとめた(38件)。母親が悩んでいる子どものさまざまな行動上の問題について、内容の近いものごとにまとめ、9の小カテゴリーに分類した。内容は以下の通りである。〈不登校／登校渋り〉(5件)、〈嘘をつく〉(3件)、〈偏食／好き嫌い〉(4件)、〈片付けできない〉(8件)、〈忘れ物〉(3件)、〈集中力がない〉(3件)、〈手伝いしない〉(4件)、〈自己管理できない〉(3件)、〈時間管理できない〉(5件)。

8番目の大カテゴリーは、《心身の健康・発育》について言及しているものを1つのカテゴリーとした(14件)。これらをさらに、「背が低い」や「最近太り始めた」などの〈発育具合等の心配〉(6件)と、「肩こり」「精神的に弱い」などの〈心身の健康〉(8件)の2つの小カテゴリーに分類した。

9番目の大カテゴリーは、《課外活動》についての悩みである(10件)。小カテゴリーとして、「習い事の取捨選択」「習い事が全く身につけていない」「習い事にかかる時間と費用が負担」など、〈習い事〉に関する悩み(6件)と、「中学受験への、やる気や成績など勉強悩んでる」など、〈中学受験〉に関する悩み(4件)の2つに分類した。

10番目の大カテゴリーは、母親の《養育に関する不安》に言及しているものをまとめた。小カテゴリーには、まず、〈しつけの難しさ、干渉の度合い〉が挙がり(11件)、子どもへの「褒め方叱り方」や、「ど

こまで手助けするか」など、子どもへの関わりを迷いながら行っている様子が見られた。また、「ついつい感情的に怒りがちなので、怒ってしまった後反省、」など、〈叱りすぎへの後悔〉も挙がっていた(9件)。さらに、〈一人で育てている不安〉(4件)や、〈関わりが少なく心配〉(4件)、〈きょうだい関係・一人っ子〉(4件)、〈経済的問題〉(2件)、〈目が届かない心配〉(3件)などが挙がっていた。

最後に、〈特になし〉は37件であった。どのカテゴリにも分類できなかった内容は〈その他〉とした(21件)。

(4) 乳幼児期の母親の育児不安との比較

小学生の母親と乳幼児の母親で、育児不安の程度に違いがあるかを検討するため、育児不安尺度の5下位尺度の得点を、幼児期のデータ(井梅, 2018)と比較した。なお、子どもの発達段階を考慮し、「育児における苛立ち」の1項目については、乳幼児期「子どもの泣き声に、イライラする」→学童期「子どもがわずらわしくて、イライラする」に変更している。他の15項目については全て同一である。結果をTable 7に示す。5つの下位尺度のうち、「育て方不安」と「苛立ち」の2つの下位尺度で有意差が認められた(それぞれ順に、 $t(798) = 2.29, p < .05$; $t(798) = 2.58, p < .05$)。いずれも、小学生の母親の得点の方が低かった。

Table 7 乳幼児期データとの比較

	学童期 (n=300)	乳幼児期 (n=500)	t値
育て方不安	3.64 (1.16)	3.83 (1.11)	2.29*
苛立ち	3.10 (1.00)	3.29 (1.07)	2.58*
疲労感	3.93 (0.93)	3.86 (0.95)	1.03
社会孤立	3.17 (1.15)	3.22 (1.04)	0.57
発達不安	2.96 (1.33)	2.81 (1.25)	1.61

* $p < .05$

(5) 母親の養育態度に関連する要因の検討

母親の育児不安に関連する要因について検討する

ため、子育ての困り感や幼少期の実父母の養育態度、身近な人(夫、実母、ママ友)のサポートとの関連を検討した。なお、子育ての困り感については全10項目の合計を使用した。

各尺度得点の相関を算出した(Table 8)。有意な関連が見られた項目を見ていくと、困り感の合計と育児不安の5下位尺度すべてで正の相関が見られた($r = .118, p < .05$; $r = .228 \sim .434, p < .01$)。また、幼少期の実父母の養育態度は、母親の受容的な養育態度が、「苛立ち」「疲労感」「社会孤立」「発達不安」と負の相関($r = -.121, p < .05$; $r = -.191 \sim -.204, p < .01$)、統制的態度が「苛立ち」「疲労感」「発達不安」と正の相関($r = .129, p < .05$; $r = .227, .230, p < .01$)が認められた。一方、父親の受容的な態度は、「疲労感」と負の相関($r = .118, p < .05$)、統制的態度は、育児不安の5下位尺度全てと正の相関が見られた($r = .129 \sim .144, p < .05$; $r = -.159, .208, p < .01$)。さらに、夫サポートは「疲労感」「社会孤立」と負の相関($r = -.158, p < .01$; $r = -.238, p < .01$)、ママ友サポートは「疲労感」と負の相関($r = -.159, p < .01$)が見られた。最後に、実母葛藤は「苛立ち」と正の相関($r = .174, p < .01$)が見られた。

4. 考察

本研究では、小学生の子を持つ母親の子育てにおける困難について明らかにするため、量的、および質的の両面から尋ね、その内容を検討した。

(1) 母親の子育てにおける困り感

はじめに、量的調査においては、性別、および、発達段階別に困り感の得点を比較したところ、4つの項目(「食事の習慣、しつけ」、「お子さんの学校でのトラブル」、「お子さんの成長発達」、「運動機能やからだの成長発達」)で男女差が見られ、いずれの項目も男子の得点の方が高かった。幼児期の調査でも(井梅, 2018)男児親の方が発達の不安を抱えており、SDQの標準化に関するMoriwakiらの調査(2014)でも、多くの項目で男児の方が困難を示していたことから、発達上の困難さや行動トラブルなど

Table 8 育児不安尺度とその関連要因との相関分析結果

	育児不安尺度					困り感合計
	育て方不安	苛立ち	疲労感	社会孤立	発達不安	
困り感合計	.434**	.323**	.262**	.118*	.228**	—
父母養育態度						
受容 (母)	-.083	-.201**	-.190**	-.121*	-.204**	-.021
統制 (母)	.074	.230**	.129*	.098	.227**	.084
受容 (父)	-.107	-.066	-.170**	-.109	-.055	-.060
統制 (父)	.159**	.144*	.140*	.208**	.129*	.010
サポート						
夫サポート	-.062	-.044	-.158**	-.238**	-.043	-.071
実母サポート	-.041	-.038	-.114	-.060	-.090	.051
実母葛藤	.036	.174**	.108	.059	.111	-.012
ママ友サポート	-.060	.001	-.159**	-.087	-.068	-.006

* $p < .05$ ** $p < .01$

で男児親は困難をより抱えやすいことが推測される。また、運動機能やからだの成長についても、女兒よりも期待されることが多く、悩みになりやすいのであろう。

また、「勉強の成績」では発達差が見られ、低学年で有意に低く、中、高学年は勉強の成績への困り感が高くなっていた。一方、「家庭学習の習慣」では発達差が見られなかった。自由記述による回答でも「勉強面」は一番多く挙がっており、「勉強の習慣がついていない」など学習への姿勢ができていないことへの悩みは多く見られた。勉強・学習面での気がかりは小学生の母親の最大の悩みであるが、年齢があがるに連れ、「成績」について気がかりになることは増えるのであろう。

自由記述の回答を見ていくと、「勉強面」の他に、「友だち関係」、さらには「子どもの反抗期・思春期」についての記述も比較的多かった。反抗期・思春期の問題は、中学生期になってからさらに本格化すると考えられるが、小学校高学年は前思春期と呼ばれることもあり（渡辺, 2008）、親子のぶつかりも大きくなっていく時期なのであろう。また、この時期は身長体重の急激な変化とともに、親との距離感も急に変わる時期でもあり、親の方の戸惑いも大きい時期である（田中, 2009）。自由記述の中にも、「最近反抗期なのか…」や「今までより、…難しいと感じる」など、変化の兆しを捉えたものが多かった。

さらに、「発達障害／発達の遅れ」についての悩

みも見られた。この中には、すでに発達障害の診断をされており、そのことにまつわる悩みから、「発達障害ではないか」と心配しているものもあった。また、「行動上の問題」に分類された「忘れ物が多い」「集中力がない」「時間管理ができない」など、発達の課題とも関連する可能性があるものも見られた。他、行動上の問題では、「不登校」「嘘をつく」など、この時期の臨床的問題として挙がりやすい事項が見られた（馬場・永井, 1997）。

「子どもの性格や気質」に関しては、「かんしゃく」「わがまま」などに手を焼いている様子や、「おとなしすぎ」たり、「マイペース」だったりのため、周囲とうまくやれているか心配している声も挙がっていた。また、「習い事」に関する悩みとして、本人のやる気がないことや、何を選択したらよいか、あるいは費用の悩みなど、さまざま挙がっていた。また、「中学受験」については4件挙がっており、これらも親の悩みになることが分かる。

最後に、子どもに関する悩みではなく、親の養育に関する悩み、すなわち子どもへの接し方の悩みが一定数見られ、これを「養育に関する悩み」とした。その中には、「しつけや干渉（どの程度まで手を出すか）の度合い」についての悩みや、「叱りすぎ」ているのではないかとといった悩み、また、一人親であることや経済的問題、時間がなくてゆっくり関われないなど、仕事と子どもとの時間のバランスをどうとるかの悩みも挙がっていた。

(2) 母親の育児不安とその関連要因

母親の育児不安について、乳幼児期のデータとの比較、および関連要因との相関分析を行った。

はじめに、乳幼児データとの比較では、「育て方不安」と「苛立ち」で小学生データの方が有意に得点が低かった。それほど差は大きくないものの、乳幼児期よりも子育てに関わってきた年数が長くなる中で、育て方への不安や苛立ちが落ち着いてくるのであろう。一方、「疲労感」や「社会からの孤立」感、「発達の不安」は子どもが小学生になっても変わらないことが今回のデータから推測された。

また、関連要因との相関分析では、育児における困り感と、育児不安との関連が全ての下位尺度で見られた。子どものさまざまな問題への困り感は、育児不安を高めるのであろう。もちろんその逆に、不安が高いからこそ、困り感を強く感じるといった側面もあり、これらは互いに影響していると考えられる。また、母親自身の両親の養育態度は、育児不安の下位尺度にいくつか、関連が見られたが、困り感との関連は全く見られなかった。養育態度で最も影響があったのは、父親の「統制」的態度で、全ての育児不安尺度と正の関連を示していた。また、母親の「統制」も一部正の関連を示していた。幼少期における父母の統制的な養育態度は、我が子を持った時、広範にわたる育児不安につながるものであろう。また、今回、父親の統制的態度が全ての育児不安下位尺度に関連しており、母親よりも影響が大きかった。母親の実母との世代間伝達の問題は子育て支援の現場でよく耳にすることであるが（渡辺，2008）、幼少期の父親の養育態度も、育児不安に関連することが示唆されたことは興味深い。一方、幼少期の父母の「受容」的態度は、育児不安を低めており、こちらは母親の方がより強く関係していた。

さらに、育児不安と夫／実母／ママ友サポートとの関連では、夫のサポートが、疲労感と社会からの孤立を低め、ママ友のサポートが疲労感を低める要因として関連していた。このような身近な人のサポートは、母親の育児における具体的な不安（「育て方

不安」や「発達不安」、または「苛立ち」に影響する訳ではないが、「疲労感」「社会孤立」を和らげるといった、精神的なサポートにつながっていることが推測された。また、実母との葛藤は「苛立ち」と正の相関があり、「実母に頼れない、干渉されたくない」といった実母との確執は、子育てにおける我が子への苛立ちを高める要因になっていることが推測された。

文献

- 荒牧美佐子 (2008). 幼稚園への入園前後における母親の育児感情の変化 家庭教育研究所紀要, 30, 139-149.
- 馬場禮子・永井徹 (1997). ライフサイクルの臨床心理学 培風館
- 井梅由美子・藤後悦子 (2014). 成人の関係性トラブルと精神的健康について 東京未来大学研究紀要, 7, 177-187.
- 井梅由美子 (2018). 乳幼児を持つ母親の育児不安と子育て支援資源の利用について—第1子の属性、所属等状況要因に着目して—東京未来大学研究紀要, 12, 1-12.
- 木戸久美子・内山和美・北川真理子・林隆 (2005). 学齢期にある子どもを持つ母親の育児支援に関する研究 山口県立大学看護学部紀要 9, 31-40.
- 小山由美子 (1999). 中学生の親子関係と学校適応感についての研究 お茶の水女子大学発達臨床心理学紀要 1, 1-10.
- 松岡純子・玉木敦子・初田真人・西池絵衣子 (2013). 広汎性発達障害児をもつ母親が体験している困難と心理的支援 日本看護科学会誌, 33 (2), 12-20.
- 宮本純子 (2013). 乳幼児をもつ母親の自己決定感が時間的展望と育児不安に及ぼす影響 心理学研究 84 (2), 176-182.
- Moriwaki A, Kamio Y (2014). Normative data and psychometric properties of the Strengths and Difficulties Questionnaire among Japanese school-aged children. Child and Adolescent Psychiatry and Mental Health.
- 田中千穂子 (2009). 改訂新版 母と子のこころの相談室 “関係”を育てる心理臨床 山王出版
- 山岡テイ (2011). 第4回子育て生活基本調査 (小中版)

第1章 子育ての気がり・情報環境 <https://berd.benesse.jp/shotouchutou/research/detail.php?id=3278>

渡辺久子（2008）. 子育て支援と世代間伝達—母子相互作用と心のケア 金剛出版

（いうめ ゆみこ）

【受理日 2023年11月22日】